



研究部会報告

● 不確実性理論の経営科学への応用 ●

・ 第 3 回

日 時：7月16日(土) 13:00~16:30

出席者：10名

場 所：千葉大学理学系総合研究棟1階105室

テーマと講師：

(1)「カオス時系列解析における埋め込み次元の推定法とその応用」

影山正幸 (千葉大学工学部)

概要：ボックスカウント法、GP法の問題点と、カオス時系列解析の困難さについて指摘した。また、Tongらによって提案されているNadaraya-Watson kernel estimateを利用した「埋め込み次元」と「最適時間遅れ」の推定法について解説した。例として、イチロー選手のオリックス時代の打率変動におけるリアプノフ指数を計測し、そのカオス性を検証した。離散型を扱う場合、連続型では直面し

ない困難さがあることも指摘した。

(2)「最小二乗回帰推定値の振舞と回帰診断」

田中浩光 (愛知学院大学)

概要：回帰分析においては、最小二乗法に基づく推定値が実践での解釈に整合しないことが往々にして見られる。本報告では、多重共線性と回帰平方和に関する抑制 Suppression の2つの現象をとりあげ、生起領域に包含関係が成立することを説明した。これらの現象は、標本の抽出、説明変数の選定の良否を問う回帰診断の重要な指標であると、主張した。

(3)「情報と経営科学に関する第4回国際会議 (The Fourth International Conference on Information and Management Sciences, IMS 2005) に参加して」

岩村覚三 (城西大学), 堀池真琴 (帝京大学)

概要：上記国際会議が7月1日~10日の日程で中国雲南省昆明で開催され、経営、不確実性理論、最適化及び応用などに関する約110篇の論文が発表された。その中で、本人の発表論文を含めて不確実理論のいくつかの重要な論文の概説がなされた。また、会議や参加者の様子は名所旧跡を織り交ぜながらスライドにより印象的に紹介された。

第3回理事会議題 (17-9-30)

平成17年度第2回理事会議事録の件

表彰規定改定の件

平成17年度上半期収支決算報告の件

平成18年春季研究発表会の件

平成17年度第1回ORセミナーの件

平成17年度秋季支部長会議議事録の件

平成17年度支部事業進捗状況報告及び

平成18年度支部事業計画の件

代議員選挙の件

JORSJ バックナンバーの

pdfファイル無料配布の件

国際関係での問い合わせの件

入退会承認の件

FMES 会則改定案の件

OR 企業フォーラム企画委員の件

50周年記念事業の件

会合記録

9月13日(火)	研究普及委員会	13名
	論文誌編集委員会	11名
9月21日(水)	庶務幹事会	8名
9月28日(水)	機関誌編集委員会	8名
9月30日(金)	理事会	18名